

ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業 1期生の成果より



言語を超えた多文化共生社会を福島に

新田和奏（福島県立磐城高等学校）

オーストラリア メルボルン(留学期間 19日間)

探究のきっかけと目的

- ・差別や多様性について話し合う中で、多文化共生が福島の課題の解決に繋がると確信
- ・日本語指導ボランティアの不足などの現状を知り、多文化共生が進む地域との違いや、互いを尊重し合える社会構築のヒントを留学に求めた。

オーストラリアでの多角的な調査

- ・メルボルンの語学学校での交流に加え、移民博物館や州立図書館で移民の歴史を学習。
- ・「Study Melbourne Hub」などを訪れ、ボランティア活動や異文化交流イベントの実態を直接取材。

留学で得た「共生のカタチ」

- ・現地では多文化共生が当たり前に根付いており、特に留学生や移民が孤独感や疎外感を感じないための「ハブ(コミュニティ)」が心の支えとして大きな役割を果たしていることを発見。

帰国後の積極的なアウトプット

- ・福島に不足している「互いに言語や文化を学び合える場」を作るため、言語交換イベントを自ら企画・実施。
- ・地域ボランティアへの姿勢も「教える」から「学び合う」へと変化し、真の共生社会を目指して活動を広げている。



浪江町とランカスター市を繋ぐ架け橋プロジェクト

チームなみえ 賀澤京柊 小池瑠花（福島県立ふたば未来学園高等学校）

アメリカ ランカスター ロサンゼルス(留学期間 24日間)

震災復興と「水素」への着目

- ・浪江町民の心の復興を目指す中で、町が推進する「水素によるまちづくり」に注目。
- ・水素連携都市、アメリカ・ランカスター市との交流を通じて浪江の魅力を発信することを目的とした。

先進的な水素事業の視察と対話

- ・現地の水素企業(ENSO、FPH2)を訪問して先進的な取組を学び、さらにランカスター市長と直接対話することで、自分たちの復興への思いやプロジェクトの意義を直接伝えた。

文化を通じた草の根交流

- ・現地の高校で、浪江の伝統文化「田植え祭り」の扇子をイメージしたオリジナル扇子作りを実施。
- ・浪江町民への応援メッセージを集めるなど、言葉の壁を超えた心の繋がりを築いた。



継続的な関係性と地域への還元

- ・活動の結果、ランカスター市の学生が浪江町を訪れる計画が動き出すなど、具体的な成果に繋がった。
- ・集まったメッセージは地元の「十日市」や道の駅で展示され、町民に元気を与える活動を続けている。



グローバル1期生 30名のデータ集



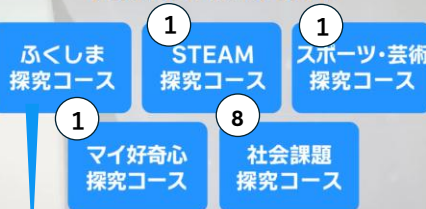
オーストラリア、アメリカ・各6名 ニュージーランド・5名
イギリス・4名 カナダ・2名 シンガポール、マレーシア、
インドネシア、ケニア、ポルトガル、イタリア、ドイツ・各1名



派遣留学先



選べる複数のコース CHOOSE FROM A VARIETY OF COURSES



コース別
派遣人数

19
ふくしま
探究コース

将来、本県の実現に貢献しようという意欲と、地域や世界の課題に当事者意識を持ってグローバルな視点で解決に取り組もうという意識を持ち、本県の抱える課題や社会課題の解決につながる探究活動に取り組む留学計画。

在籍校と派遣人数

福島高 8	安積黎明高 1
郡山高 3	光南高 1
白河高 1	葵高 4
磐城高 1	ふたば未来学園高 8
福島高専 2	第一学院高 1



2週間以内
3週間以内
1か月以内
1か月以上

留学期間

短い生徒は14日
長い生徒は45日
留学をしてきました



留学して、高校生たちはどう変わったの？

7つの項目について、留学前と留学後の自分の資質・能力の変容を5点満点で自己評価

→→→→→ **留学が、自己の成長に大きく影響**

留学前後の資質・能力の変容

